

第1章

生産管理概論

1 生産管理の基礎

1 生産管理とは

生産管理とは、JIS（Japanese Industrial Standards：日本工業規格）において「財・サービスの生産に関する管理活動。具体的には、所定の品質Q（Quality）・原価C（Cost）・数量および納期D（Delivery, Due date）で生産するため、またはQ・C・Dに関する最適化を図るため、人、物、金、情報を駆使して、需要予測、生産計画、生産実施、生産統制を行う手続およびその活動（JIS Z8141-1215）」と定義されている。

ある製品を生産するときに、どんなモノを（生産品目）どのような品質で（Q）、いくらで（C）、いつまでの納期（D）に、どのくらいの数量（D）生産しなければならないのかを具体的に指示する必要がある。そして生産管理では、①Q（Quality：品質）、②C（Cost：原価）、③D（Delivery：納期・数量を守るための工程）の3要素（まとめてQCDという）を管理することが重要となる。なぜならば、顧客の求めるQCDを満足することで、顧客満足（CS：Customer Satisfaction）を高められ、モノの確実な生産・出荷・販売拡大、すなわち事業の発展を図ることができるからである。このために、事業活動においてQCD（または後出のPQCDSME）は製造部門で管理すべき重要な要素である。



管理とは、「経営目的に沿って、人、物、金、情報など様々な資源を最適に計画し、運用し、統制する手続及びその活動（JIS Z8141-1104）」である。管理とは、PDCA（Plan：計画、Do：行動、Check：検証、Action：処置）と言い換えることもできる（⇒PDCAサイクル）。

つまり、

① P（Plan）： 管理項目と目標値（計画値）を設定する。生産管理ならQCD（またはPQCDSME）について管理項目を設定する。

② D（Do）： 日々の生産活動を行い、適切な頻度で実績値を測定する。

③ C（Check）： ②の実績値と①の計画値との差異を把握する。

④ A（Action）： ③の差異が大きい場合、原因を分析し、必要な場合には処置する。

→①に戻る。場合により管理項目や計画値を見直すこともある。

これらの一連の活動を生産に対して継続的に行うことが、生産管理である。

